

主 論 文 要 旨

No.1

報告番号	甲 乙 第	号	氏 名	鈴木 栄之心
主論文題目： 公的介護保険制度における「政府の失敗」の理論枠組みの構築と検証： 基礎自治体による介護保険料の決定メカニズム				
(内容の要旨) 本論文では、中央政府と地方政府がそれぞれの自己利益を追求する結果、制度設計の意図とは異なる帰結を引き起こす問題を主題とし、基礎自治体による介護保険料の意思決定プロセスを対象に、新たな方法論の構築と時系列データに基づく検証を行った。 第1章では、「政府の失敗」に関連する先行研究の限界を指摘しながら、「政府の失敗」を「制度の失敗」と「政策の失敗」に区分し、中央地方関係の視点から両者の理論的な位置づけを提示した。 第2章では、ヒアリング調査を実施し、理論枠組みを市町村実務に即して精緻化した。 第3章では、4つの失敗メカニズムを仮説的に導出し、その検証に向けて保険料概念の整理と「介護保険財政データベース」の構築を行った。 第4章では、中央政府の「制度の失敗」として「地方政府が施設・居住系サービスの適正化に消極的となり、中央政府の財政負担が増加することの失敗」を検証した。その結果、国が市町村間の介護保険料の格差を是正するために交付する調整交付金を手厚く受ける市町村ではモラルハザードを起し、国の意図しない財政負担の増加を招いていることが明らかとなった。 第5章では、中央政府の「政策の失敗」として「地方政府の分散的行動により中央政府が保険料格差を制御できないことの失敗」を検証した。検証の結果、保険料収入の剰余金を管理する準備基金からの取崩し額の調整など、市町村の行動次第では、介護保険料に一定の格差が生じる恐れのあることが分かった。 第6章では、地方政府の「制度の失敗」として「準備基金からの取崩しにより保険料伸び率が乱高下することの失敗」を検証した。検証により、一定の被保険者規模の市町村では、保険財政状況と保険料伸び率の間におおむね負の関係が認められた。 第7章では、地方政府の「政策の失敗」として「地方政府が意図的に介護保険料を軽減して、将来の負担が増加することの失敗」を検証した。その結果、一部の市町村では、介護給付費の実態よりも低い保険料設定や安易な保険料減額を行っていることが観察された。				

終章では、本論文の知見として「中央政府の財政的統制と地方政府の分散的行動によるジレンマの動的な過程」を提示した。また、失敗メカニズムのうち中央政府の「制度の失敗」を解決することにより、他の「政府の失敗」の解決が誘発される可能性を示した。さらに、他の政策領域に対する理論枠組みの適用可能性について議論した。

キーワード：政府の失敗, 制度の失敗, 政策の失敗, 中央地方関係, 調整交付金